

報



會

會 岳 山 本 日

3

月二十年五和昭

去つてゆく人々

日本山岳會には、新入會者も多いが、退會してゆく人も、可なりにある。刈萱の淨瑠璃にある加藤左衛門の臺詞の「四百四十の山寺に、日毎に入り来る初發心、昨日剃つたも今道心、おとつい剃つたも今道心」の感がある、と言つても、新入會員の中には山で鍛へた猛者が多いから、今道心に譬へるのでは、決してない。刈萱入道は、山岳會の新入會員に當て鉄めるために、このやうな名臺詞を残してくれたので無いとすれば、比喩の跛足になるのは、止むを得ない。私は毎號の「山岳」を讀んで、新入會員を迎へる悦びのあとで、舊岳友に去られる悲哀を、味はないことのないことばない。手にする蓋には、甘酸兩味の混合酒が盛られてゐる。私はその滴りを舌頭に受けては、考へ込む。

誰にも都合のあることだから、去つてゆく人々を、今更何と致しやうもないが、中には、山岳會の歴史の上から云つて、去なしともない人たちがあつた。私は未練がましく袖に引き止めないが、「あの時は、ねえ君」ぐらゐの話をさしてもらひたい、聞いてもらひませう。

先づ岡野金次郎君である。明治三十五年に、始めて槍ヶ岳に登つた時の同伴者は君であつた。ウエストンを知つたのも、「日本アルプス」なる英文の著書を、始めて手にしたのも君であつた。ウエストンを、山手の

邸宅に訪れて、山岳會なるもの、存在を聞かされ、お互に興奮して、竊かに今日を期待したのも、君と私であつた。ウエストンが、二度目の來朝の時に、我が山岳會が主催して、同氏の日本アルプス探検講演を公開したことがあつたが、その時の通譯は、前半が私が務め、後半を同君が受け持つたのであつた。現に同君が日本から、ウエストンに與へた通信文は、ウエストンの著書「絶東の遊山地」の一節に收められてゐる。日本アルプス登山史に槍ヶ岳の關する限り、日本山岳會にウエストンの關する限り、岡野君の名は、抹消出来ないものであるが、私の外遊中に、君の名は、會員名簿から消えて、本年の夏、新聞の電報に、上高地の發見者とか、日本アルプスの最初の探検者とかいふ標題で「岡野翁來る」の書き出しに、君の健在を知つて、「あいつ、未だやつてるな」と、獨りでほくそ笑んだことがある。どうか來年も「岡野翁來る」を、讀みたいものだと思つてゐる。

岡野は（君といふ字を落したが、やはり呼び捨ての方が、親しみがあつていゝ）當時、横濱の住人であつた。發起人の高野君も、横濱であつたが、今一人、横濱生立拔きの岳友があつた。戯曲家として高名な山崎紫紅（小三）君其人で、今でこそ、史劇の大家であり、神奈川縣政友會の重鎮であつて、登山家としての君は、忘られてゐるが、早期時代に於て、私が赤石岳に登つた時の連れは君であつた。小澁川の河原で、二人で雨に遇つて野宿したことや、金峰山や、八ヶ岳に登つた話など、次ぎに次ぎに、思ひ出される。當時君の手に成つた紀行文は、雑誌「文庫」に連載されて、圓轉滑達な文章は、君の談話の妙を彷彿させるもので、他日君の全集でも編まれたら、逸文として、搜索收録したいと思つてゐる。君の紫紅といふ號が、高山植物の胸草の花の色から、思ひついたこと、史劇「佐良越え」は、實際の舞臺に演ぜられたが、針ノ木峠あたりを舞臺に取つたのも、山の好みから來てゐること、又君の出世作「上杉謙信」に出てくる若い女の名を、妙香としたのは、妙高山から採つた名であることなど、君の純文藝上の創作には、山の感化が頗る多い。さういふ内幕話を知つてゐるのも、私ぐらゐなものであらう。その山崎君も、近來は、政治や實業の方が忙がしいためか、會員から去つてしまはれたのが、私には淋しい。疎らに残つた齒が、こゝにも亦一本缺けた心細さがある。

山崎紫紅君の名と、聯想されるのは、伊井蓉峰である。新派の頭領として、所謂「伊井河合」團が、眞砂座に據つてゐた時分、山崎君は、座附作者のやうな位置であつた關係があり、多分山崎君の紹介で、入會されたと思ふが、名簿には、藝名の伊井でなく、本姓であつたかも知れぬ。伊井君は、敢えて登山家ではないが、秩父の三峰信仰とかいふ話で、弟子たちを引き連れ、參詣をされるさうだ。或時、山崎君の語に、旅中の伊井から、電報があつたから、何事かと抜いて見ると「山岳會の會費立替頼む」とあつたので、二度びつくりしたさうだ。會費の催促ハガキが伊井氏宅から、旅行先へ轉送されたので、手紙でも濟むことを、態々電報で頼んで來たらしい。「伊井といふ男は、生真面目な人間ですよ」と山崎君が、附け加へたが、世間、耳の痛い連中が、一人や二人は、ゐないかな。

役者衆の話の次手に、今の坂東彦三郎も、尾上榮三郎時代に、寺島幸の本名で、入會されてゐた。前述のウエストンの講演の時に、來聽者の中に見かけたほど、熱心で、山岳會の方でも、同君のために、市村座を有志の人々で、總見をしたことがあつた。この時は、樂屋の中でも、評判で、六代目（菊五郎）も、山岳會の強者を、壯士の群れか何かのやうに想像してゐたらしいが、高土間に陣取つた若人の、存外におとなしき人々であるのに、意外に思つたといふ話を洩れ聞いたが、直接に、本人から聞いたのでないから、當てにするわけにはゆかない。伊井君も彦三郎の寺島幸君も、最早會員ではなくなつてゐる。

山岳會員に畫家は多いが、一番山好きで、理解の多いのは、石崎光瑠氏（別として、高嶋北海畫伯で、有志晩餐會にも、時々出席せられ、私や高頭君たちの一行が、飛騨高山の

長瀬旅館に泊つたときも、偶然に一
緒になり、畫伯から、飛驒の山岳の
斑岩質なること、その形體の特色な
どについて、畫家らしい緻密の觀察
を聞かされ、流石に「寫山要訣」の
著者だけあつて、新しい「近世畫家
論」の草稿を讀まれたやうな氣が
したが、高頭君は、畫伯に囑して、
檜穂高の群峰を、鳥の子紙の二枚折
屏風に、美事なる墨繪で、揮毫して
もらつて、珍藏されて居る。(山岳會
大會の展覽會にも、出品せられたか
ら、御覽になつた方もあらう) 畫伯
は、文部省展覽會時代の審査員であ
り、今は郷里の長州に隱退せられた。
近頃畫伯が「七十七齡北海漁史」と落
款せられた山水花鳥の幅を見たが、
山谷の皴法は正確の域に入つて、一
般畫人の空疎放漫に似ず、是ある哉
と思はせるところがあつたが、畫伯
も今は、本會を脱退せられてゐる。

古い酒の味ひを、私は知らないが、
古い友達の懷つかしさは、泌々々々
とこたへる。こんなことを書いてゐ
ると「憂き我を淋びしがらせよ閑古
鳥」の、芭蕉の句と、その心境が、
おぼろに解つて来る。年の故であ
らうかい。

小島 烏水

英國山岳會よりの祝電

本會創立二十五週年を祝して英國
山岳會より左の如き祝電ありたり。

Heartiest congratulations, good
wishes 25th anniversary, Alpine
Club.

尚又、定期總會に參集せる同山岳會

會員一同を代表して會長ウィルソン
博士より別に祝電ありたり。

Alpine Club annual meeting as-
sembled. Heartily congratulates
Japanese Alpine Club 25th anni-
versary. President Wilson.

本會の組織變更

本春以來本會を財團法人組織に改
むるの議を進め來れるが、從來の傳
統を重んずるの要あると共に法律上
適法なるを要し、幾多の難點に遭遇
せるを以て案を練ること十數回の多
きに及べり。法律家の内見改訂を乞
ひ今日漸く左記の如き成案を得、可
及的急速に主務官廳に認可申請の手
續を執らんとするの運びに至れり。
組織變更後と雖も本會の根柢を形く
る傳統には何等の變革なきを期せ
り。茲に組織變更のことを公表して、
年來の會員各位が今後も本會を支持
後援せられんことを冀ふものなり。
昭和五年十二月 日本山岳會

財團法人日本山岳會

寄附行爲

第一章 總則

第壹條 日本山岳會資產ヲ財團法人
日本山岳會ト爲シタメ該財團法人
ノ資金トシテ左ノ資産ヲ寄附シ此
規定ニ依リ寄附行爲ヲ爲ス

第二章 目的

第貳條 第壹條ノ規定ニ依リ設立セ
ラルタル財團法人ハ山岳ニ關スル
科學、文學、藝術、技術其他一切
ヲ研究シ以テ健全ナル登山氣風ノ

振興ヲ期シ且ツ會員相互ノ連絡親
睦ヲ圖ルヲ目的トス

第參條 本會ハ前條ニ掲ケタル目的
ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ爲ス

(一) 機關雜誌「山岳」ノ發行、又
時宜ニ依リ別ニ臨時又ハ定時ノ
出版物刊行

(二) 其他登山者ノ爲メ適宜ノ事
業

第三章 名稱

第肆條 第壹條ノ規定ニ依リ設立セ
ラルタル財團法人ノ名稱ハ財團法
人日本山岳會ト稱ス

第四章 事務所

第五條 本會ノ事務所ハ東京市芝區
高輪南町三十番地ニ置ク

第五章 資產

第六條 本會ノ資產ハ第壹條ノ寄附
金額何圓ヲ以テ其總額トス

前項ノ資金ハ之ヲ基本財産トシ消
費スルコトヲ得サルモノトス

基本財産及其他ノ財産ハ理事會ノ
議決ヲ經タル方法ニ依リ理事會之
管理ス

第七條 本會ノ經費ハ會費及基本財
產ヨリ生スル收入、其他ノ雜收入
ヲ以テ之ヲ支辨ス

第八條 本會ハ篤志者ノ寄附ヲ受ク
ルコトヲ得

使用ノ目約ヲ指定セサル寄附金ノ
處分方法ハ理事會ニ於テ之ヲ決定
ス

第九條 毎年度ノ豫算及決算ハ理事
會之ヲ作成シ役員總會ノ承認ヲ經
ルモノトス

第十條 本會ノ事業年度ハ一月一日

ヨリ十二月三十一日迄トス

第六章 役員及役員會

第拾壹條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長一名、副會長若若干名、評議員
拾五名以内、常任理事十五名、監
事二名以内

第拾貳條 役員中常任理事並ニ會長
副會長常任評議員ヲ理事トス

第拾參條 會長ハ本會ヲ代表ス但會
長ニ事故アル場合ハ副會長之ニ代
ル

第拾四條 會長及副會長ハ役員總會
ニ於テ役員ノ内ヨリ之ヲ推薦ス會
長及副會長ノ任期ハ三年トス但シ

役員トシテノ任期滿了シタル場合
ハ會長副會長トシテノ任期滿了前
ト雖モ交替スルコトアルヘシ

第拾五條 評議員ハ本會ノ重要會務
ヲ審議ス

第拾六條 評議員ハ從前ノ日本山岳
會發起人ノ總テト元役員タリシ會
員中ヨリ評議員會ノ推薦セル者ヲ
以テ之ニ任ス

發起人以外ノ評議員ノ任期ハ三年
トス但重任ヲ妨ケス

第拾七條 評議員ハ互選ヲ以テ常任
評議員若若干名ヲ選任ス

第拾八條 常任評議員ハ評議員會ヲ
代表シテ會務ニ參與ス其任期ハ三
年トス

第拾九條 常任理事ハ別ニ定ムル細
則ニ依リ候補者中ヨリ會員ノ投票
ヲ以テ之ヲ選任ス其任期ハ三年ト
ス常任理事定員數ノ三分ノ一ヲ毎
年改選スルモノトス但引續キ重任
スルコトヲ得ス

第貳拾條 監事ハ評議員會ニ於テ會
員中ヨリ之ヲ推薦ス其任期ハ三年
トス但重任ヲ妨ケス

第貳拾壹條 役員總會ハ評議員理事
ヲ以テ組織ス

第貳拾貳條 役員總會、評議員會及
理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル但會
長ニ差支アルトキハ副會長之ニ代
ル

第貳拾參條 役員ハ任期滿了後ト雖
後任者ノ就任スル迄ハ其任務ヲ行
フモノトス

役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ前各
條ニ依リ夫々之ヲ補充ス補缺役員
ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

前項ノ場合ニ於テ持ニ補缺ヲ必要
トセザルトキハ次ノ改選期迄之ヲ
行ハサルコトヲ得

第貳拾四條 役員總會、評議員總會
及理事會ハ會長之ヲ招集ス

第貳拾五條 役員總會ハ役員二分ノ
一以上評議員會ハ評議員二分ノ一
以上理事會ハ理事二分ノ一以上出席
スルニ非サレハ議決ヲナスコトヲ
得ス

第貳拾六條 役員總會、評議員會及
理事會ノ議決ハ出席者ノ過半數ヲ
以テ之ヲ定ム

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル
所ニ依ル

第貳拾七條 役員ハ總テ無報酬トス
但其職務ノ爲メ必要ナル實費及旅
費ヲ給與スルコトアルヘシ

第七章 會 員

第貳拾八條 本會ハ會員ヲ分チテ左
ノ三種トス

- 一、通常會員 會費年額六圓ヲ納ムル者
- 二、終身會員 一時金百圓以上ヲ納メタル者
- 三、名譽會員 役員會ニ於テ推薦シタル者
- 右ノ二、三、ニ該當スル會員ハ爾後會員籍ヲ有スル間ハ會費納付ノ義務ナキモノトス
- 第貳拾九條 本會々員タルントスル者ハ會員二名及役員一名ノ紹介ヲ以テ申込ムモノトス
- 入會許可ノ通知アリタルトキハ入會金五圓ニ會費ヲ添ヘ拂込ムモノトス入會許可ノ通知アリタル後一ヶ月以内ニ右ノ手續ヲ爲ササル者ハ入會ノ許可ヲ取消スヘシ
- 第參拾條 入會ノ許可ハ理事會ノ決議ニ依ルモノトス
- 第參拾壹條 本會ハ毎年大會及小集會ヲ開ク
- 第八章 補 則
- 第參拾貳條 本會附行爲ノ變更ハ役員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス
- 第參拾參條 前條ノ決議ハ役員三分ノ二以上出席シ其出席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 第參拾四條 本會ハ適當ト認ムル地方ニ支部ヲ設クルコトヲ得、支部規則ハ役員總會ニ於テ之ヲ決ス
- 細 則
- 一 會費其他に關するもの
- (イ) 會費は毎年二月末日迄に納付すべきものとす
- (ロ) 毎年十一月末日以後の入會者

- に對しては翌年度の會費を免除す
- (ハ) 本會は會員に會員章を交付す會員章を紛失したるものは實費を以て再交付を受けることを得
- (ニ) 本會は機關雜誌「山岳」を毎年三回發行し毎號一部を本會會員に頒布す但毎年十一月末日以後の入會者には頒布せず
- (ホ) 毎年十一月末日以後の入會者が其年度の雜誌「山岳」の頒布を希望するときは更に一ヶ年分の雜誌代を納むることを要す
- (ヘ) 本會會員は別に定むる所に依り本會所藏の圖書を閲覧することを得
- (ト) 會員にして退會を欲するときハ其旨事務所に必ず書面を以て申出づべし
- (チ) 會員にして本會の體面を毀損し又は會費納付の義務を怠りたるものは理事會の決議により除名す
- (リ) 本會は既納の金品を一切返付せず
- (ヌ) 團體加入者の代表者交代したる場合には新舊兩代表者の連署を以て代表者變更届を提出すべし
- 二 常任理事選舉に關するもの
- (イ) 常任理事定員十五名の内三名は之を關西在住の會員中より選任す
- (ロ) 役員總會は常任理事改選又は缺員補充の際に會員中より候補者を推薦すべきものとす
- (ハ) 會員十名以上の推薦により會員中より一名の候補者を舉ぐることを得但一候補者を推薦したるものは他の候補者を推薦することを得ず
- (ニ) 常任理事候補者たるべきものは入會後滿三ヶ年を経たることを要す
- (ホ) 團體の代表者たる資格に於て會員たるものは候補者たることを得ず
- (ヘ) 候補者の氏名は豫め本會より全會員に通知し投票を求むるものとす
- (ト) 候補者の数が改選又は補充せらるべき定員の數を超過せざるときは投票を要せざるものとす
- (チ) 改選の際五名の内一名は關西在住の常任理事とす
- (リ) 投票は記名連記投票とす

會務報告



- 評議員會 十一月二十五日
- 評議員三名 幹事十名出席
- 一、關西に於ける研究會の件
- 一、記念講演會の收支清算
- 一、山小舎建設計畫促進のため武田

- 冠、渡邊、松方、松本、横、角田、浦松、藤田を以て委員會を組織す
- 一、明年度豫算案の件
- 一、研究、調査係にてガイドブック編輯の件
- 一、寄附行爲案審議、役員を左の通り推薦したり。
- 會長 小島久 太氏
- 副會長 高野鷹藏氏
- 同 横 有 恒氏
- 評議員は現任評議員中辻本滿丸氏病氣の故を以て辭任せられ新たに木暮理太郎氏就任。評議員總數十名、内常任評議員として武田久吉、高頭仁兵衛、高野鷹藏、木暮理太郎の四氏推薦。
- 法人設立後の常任理事としては現幹事十五名を以てし、監事としては會員木村鐵吉氏を推薦することせり。
- 第四十九回小集會
- 十一月十五日赤坂三會堂に於て横幹事司會にて開催左の講演ありたりカシミールの山旅 長谷川傳次郎氏來會者九十余名。
- 紀念晚餐會
- 十一月二十七日、日比谷山水樓に於て開催、來會者四十七名頗る盛會なりき。
- 研究部報告
- 雪崩調査表は十一月下旬出來、各方面に發送した。本調査表の意義に付いては會報第一號に説明した通り

- であつて、研究部としては、出来る限り多くの返信を希望して已まない。殊に最近冬山に出掛ける人人の新しい體驗が調査表に盛りられて送られることは私達の最も期待してゐる所である。未だ調査表を手にして居られない會員諸君には御申越次第御送りする。
- ガイドブック研究會は、既報の如く穂高連峰をその主題として研究を進め、最近に於てはその材料、次第に蒐集されてゐる。殊に岳川谷方面に就ては殆ど完成の域に達した。
- 研究部としては、穂高に關する限り如何なる無名の澤と雖も、十分なる研究を爲し遂げ度いと希望してゐる。之等の點に就て會員諸氏の報告を期待してゐる。穂高の珍らしき寫眞或はスケッチ等を御所持の方は、研究部に貸與せられん事をお願いする。
- 研究部に關する照會は、芝區琴平町一、不二屋ビル三〇七號、日本山岳會研究部宛
- 關西研究部第二回集會
- 十一月二十五日午後七時 於大阪堂ビル講堂 出席者三十五名
- 題目 雪崩の自然發生的分類に就て
- 第一回の研究會に於て提案された自然發生的分類に就て研究討議。このシステムの假りに命名された、一次、二次、高次等の雪崩の性質に就き研究を進める。種々なる修正もありたれど、大體之を可とし、之に

基いて雪崩観測表の作成に着手することとする。

會計報告

昭和四年度の收支報告は次の如し。

収入

會費	三、五五・五〇
入會費	三三〇・〇〇
雜誌代收入	六三三・六六
圖書室維持費及寄附金	元・〇〇
利子及雜收入	四六・四〇
前年度繰越金	三〇一・〇〇
計	五、〇八七・五二

支出

雜誌發行及編輯費	四、〇六二・元
集金費	四四・七五
圖書室設備費	三三・二〇
圖書室賃借料	一〇〇・〇〇
事務所費	二六八・六元
計	五、〇八七・五二

昭和六年度 豫算 は次の如し。

會費	五、一〇〇
雜誌費上代	二〇〇
廣告料	二〇〇
利息	二〇〇
山日記印稅	五〇〇
入會金	二二〇
雜收入	二〇〇
計	七、〇〇〇

支出

雜誌印刷代	二、四〇〇
會報印刷代補助	一〇〇
圖書室賃料	六〇〇
集會室賃料	三〇〇

編輯費	二五〇
研究調査費	二〇〇
集會費	一五〇
役員會費	一〇〇
集會室設備費	一〇〇
スライド製作費	二〇〇
人件費	四〇〇
旅費	一五〇
通信費	二〇〇
印刷物文房具	二〇〇
臨時費	二〇〇
入會金基本金へ繰入	二五〇
計	五、八〇〇
差引剰余金	一、二八七・五二

剰余金は山小屋建設基金及圖書室基金に、年末決算後繰入れらるゝ事に決定せられた。

會費滞納者(本年度分)は十二月一日現在に於て、百名余に上つてゐます。會費の督促は、今日迄に數回に亘り、無益なる努力と郵稅の浪費をしてゐる譯ですから、會の爲め是非至急お拂込み下さい。

紀念講演會決算報告

十一月七日朝日講堂に於て催されたる講演會の收支報告次の如し。

収入

切符賣上代(八七三枚)	四八・五〇
雜收入	〇・八
計	四八・六

支出

會場費	一三・〇〇
印刷費	四・五〇
交通費	四・六

郵稅	一・三
雜費	元・八〇
計	二八・六
差引殘高	二〇〇・〇〇

右殘高二百圓は山小屋基金に繰入る。

會員計報

昭和五年 逝去 五五 横濱市 大嶋 敬治
十月十日 逝去 五五 福岡縣 鎌瀬 貞藏
十月十七日 逝去 五五 本會は右二氏に對し、謹んで哀悼の意を表する。

退會者

昭和五年 兵庫縣 田中 二郎
十二月五日付

會員現在數

會員總數(昭和四・十二・)
新入會員(昭和五年中) 三三
合計 六三

内

死亡 八
退會 三
其他* (共) 二

差引現在(昭和五・十二・五) 三三
會員數(現在) 三三
*其他は引續き二ヶ年以上會費を納付せず會員名簿より削除せるもの。

會員名簿
新しい會員名簿は「山岳」と共に發送しました。



會員木村鐵吉氏寄贈書

埃及紀行 天沼 俊一
日本より支那へ 後藤 朝太郎
ヒマラヤ行 鹿子木 員信
地球(温泉號) 京大地球學園
雪中富士登山號 成功臨時増刊
會員木村鐵吉氏寄託書
Karakoram and Western Himalaya 1909.

會員近藤茂吉氏寄贈書

Abraham, G. D. British Mountain Climbs
—— Swiss Mountain Climbs
Alpine Club Peaks, Passes and Glaciers
Anonymous Alpine Climbing
Baker & Ross The Voice of the Mountains
Ball Alpine Guides, Central Alps
—— Western Alps
Dent, C. T. Mountaineering
Hirst, J. Songs of the Mountaineers
Lunn, A. Englishman in the Alps
—— The Alps
Public Schools Alpine Sports Club Year Book
Wilson, C. Mountaineering
Young, G. W. Wind & Hills

新到著書

小秋元隆邦 最近のスキー術
同 銀盤に抽く
坂部護郎 シュナイダーは語る
新講入書

Bilgeri. Handbook on Mountain
Skiing

新刊紹介

スキーの山旅 田部重治編

法政大學山想會の人々の手に成るもので、積雪期の山々の紀行が集められてある。雪の山の案内書として、冬の火鉢の傍に山を想ふ伴侶として、手頃の書物である。挿入写真の美事さは、山を知る者に、思はず嘆息を發せしめやう。(二圓五十錢 大村書店)

"The Kangchenjunga Adventure," by F. S. Smythe

今夏試みられたカンチエンジュンガ登攀隊の報告である。四十八枚の美事な挿繪が入れてある。(十六志)

"Alpine Passes" by J. E. Tyler.

アルプスの著名の峠に就て中世紀に於ける歴史的研究をしたものである。(八志六片)

"Early Travellers in the Alps" by G. R. de Beer.

十六世紀から十八世紀へかけての時代に於ける、初期のアルプス旅行者の記録を基として書き綴られたもので、當時の版畫が多数に挿繪として入れられてある。(十志六片)

"The Complete Ski-runner" by A. Lunn.

コンプリート叢書の一つとしてスキーの本が出版された。著書は例のランである。(十志六片)

"Im Kampf um den Himalaya" von P. Bauer.

昨年のドイツのカンチエンジュンガ登攀隊の壮烈な記録である。四枚の地圖百數葉の見事な寫真がある。(約五圓)



關東學生登山聯盟總會

創立後滿一年を閉した同聯盟では十一月三十日朝日講堂に於て第一回定期總會を開催した。集會者七十名の多きに達し、各部報告、各セクションの活動報告あり、會則變更は二三の修正ありたるも結局満場一致で可決、終つて懇親會に移り、冬期登山計畫に就き意見交換ありたり。本會より藤島、藤田兩幹事、出席し、メッセージを朗讀、尙藤島幹事より最近の本會の諸事業を説明する所ありたり。

關西學生山岳聯盟

十一月中旬及び十二月上旬、兩セクションの協議で、總會に提出された聯盟をより活動的にすべき具體案に就て討議す。尙報告第二號の編輯準備の打合せを協議す。

英國王立地學協會百年祭

十月二十一日より三日間に亘り盛大なる記念祭が、その新築の講堂に於て催された。國王を代表してヨーク公、其他皇太子殿下、各國の代表者參列し、興味深い幾多の講演があつた。

カメット登攀隊

西部ヒマラヤにあるカメット(二五、四三二呎)の登山を試る爲めに、來春三月早々英國から登攀隊が出發する。隊員はスマイス、其他三名より成る。



會員通信

カシミール

新雪の道をホニーでグルマルプの上まで遊びに行つた。Adharatから Pir Panjal の尾根はスキーにいらしい。ナンガパルバットの岩と氷河とが凄く空中に壓迫する。素晴らしい晴れ方だ。ハラムクは豪壯。Dal の湖で マッコミミックの筆は持たずともせめて少しは繪が描けたらと思つた。日本の三月のやうな氣候だ。一九三〇・一〇・二七
カシミール・スリナガルにて
曾原喜久藏

ビレネー

ビレネー東部の温泉に來た序にアシンドラにきました。佛國側から二千七八百メートルの山を直接越してきました。久振りでリユックサックを背にして人氣の少い所を歩いたので愉快です。

一九三〇・八・一四

アシンドラにて 日高信六郎

カナダ

瑞西ガイドと共に近くの山を歩き居候處圖らずも山小屋にて辻村近藤兩氏 シュレックホルンに伴はれしヘスラーの息子及當のフオイツに邂逅致し奇遇を喜び申候
一九三〇・一・一三
カナダ・アルバータ州
ルイズ湖畔にて 沼井鐵太郎

山岳廿五年三號訂正

頁 行 誤
一(英文) 見出 K. Okada
四(邦文) 一一 第三圖
同 一七 第二圖
五九 九 北側の火口壁
六二 八一〇 全部削除
六八 五 厚く好意を...
以上御訂正下さい。
岡田喜一

山岳原稿締切

山岳第二十六年第一號の原稿締切は一月三十一日。芝區琴平町一不二屋ビル三〇七號 日本山岳會宛御送附下さい。

一月圖書室當番幹事

九日 藤島 廿一日 松方
十二日 藤田 廿三日 松本
十四日 冠 廿六日 鳥山
十六日 木暮 廿八日 角田
十九日 横 卅日 浦松
圖書室は以上記載の日の午後五時半頃より開いて居ります。

山日記編輯上の希望

山の方言、山小屋、山案内に關して出来るだけ多くの材料を供給される事を希望して居ります。日本山岳會山日記編輯係宛御通知下さい。

編輯後記

小島さんの隨筆は二十五年を迎へ

廣告 一六 半
段 圓 五十一
頁 圓 十三

昭和五年十二月二十四日印刷
昭和五年十二月二十六日發行

發行所 東京市芝區高輪町
三〇三 日本山岳會
(刷印堂明開)

山とスキーの本

Alpen (Die). Das Gesamtgebiet in Bildern.
Hrsg. von H. Schmithals. Mit einer
Einleitung von E. Ralkschmidt. Lex.-40,
geb., SS. XXVI, 336. (P.30).....22.50

Bilgeri's (Colonel) Handbook on Mountain
Ski-ing. Tr. with Notes by M. H. Holme.
With Illus. '29. Cr. 4to, pp. 110. (P.12).....3.40

Bruce, C. G. und anderen Teilnehmern.-
Mount Everest der Angriff 1922. Mit 35
Bild. u. 2 Karten. '24. Lex.-80, geb., SS.
VIII, 199. (P. 17).....4.00

Caulfeild, V.-How to Ski and How not to.
With Illus. '27. Cr. 8vo, pp. viii, 286.
(P. 12)3.75

----- Ski-ing Turns. '26. With Illus. '26.
Cr. 8vo, pp. 279. (P. 12)4.25

Fanck, A. u. H. Schneider.- Wunder des
Schneeschuhs, Ein System des Richtigen
Skilaufens und seine Anwendung, im
Alpinen Geländelauf. Mit 242 Einzelbil-
dern u. 1000 kinematographischen Rei-
henbildern. '30. gr. 40, geb., SS. 224. (P.
.18)15.00

Lepiney, J. and de T.- Climbs on Mont
Blanc. With Illus. '30. Med. 8vo, pp. xii,
179. (P. 12)5.25

カンチェンジュンガ登攀記

THE KANGCHENJUNGA ADVENTURE

By
F. S. Smythe
With 48 Plates
Med. 8vo. pp. 464.
1930

Priceabout ¥ 8.00

—|近 着|—

IM KAMPF UM DEN HIMALAYA

Der erste deutsche
Angriff auf den
Kangchendzönga
1929

Von
P. Bauer

Mit 100 Bildern, 5 Panoramen,
4 Karten

Priceabout ¥ 5.00

東京市日本橋通二丁目

丸善株式会社

Lunn, A.- Alpine Ski-ing at all Heights and
Seasons. With 3 Diagrams and 8 Illus.
2nd Ed., rev. '26. Fcp. 8vo, pp. xiv, 106.
(P. 12)2.50

Lunn, A.- The Mountains of Youth. With
Illus. '25. Med. 8vo, pp. 192. (p. 12).....5.25

Luther, C. J.- Schneelauf, Sprunglauf,
Langlauf. 240, ungeb. (P. 04).....1.35

Norton, F. E. u. andern Teilnehmern.- Bis
zur Spitze des Mount Everest die Bestei-
gung 1924. Mit 24 schwarzen u. 8 farbi-
gen Bildern u. 2 Karten. '26. Lex.- 80,
geb., SS. XI, 259. (P. 18)5.00

Poulsen, O.- Skiing, with a Chapter on
Snowshoeing. With Illus. '24. Cr. 8vo, pp.
199. (P. 12)4.00

Smythe, F. S.- Climbs and Ski-Runs: Moun-
taineering and Ski-ing in the Alps, Gre-
at Britain and Corsica With Illus. '30.
Med. 8vo, pp. xx, 307. (P. 18)10.50

Younghusband, Sir F.- The Epic of Mount
Everest. With Illus. '29. Med. 8vo, pp.
319. (P. 12)3.75

運動圖書 目録進呈

東京市京橋區南傳馬町二ノ五
振替口座東京第二八〇九番

目黒書店發行

香山 ラグビー
フットボール
送、六

正田著 スキーカード
送、三

三郎著 スキー登山
送、三

三郎著 岩
送、三

速雄著 スキーイニング
送、三

五代著 スケートイニング
送、三

吉井 陸軍大尉
修七著
(新刊)
新井陸軍中將閣下題字・
實生活に應用
すべき日本化
實用スキー術

近年幾多のスキー書が公にされたが、權威ある體験上よりのものは少い。本書の著者は彼の有名なヘルセット中尉について心骨を砕いて研究をなしそれに又シユナイダーにも師事してその妙諦をとり入れたもので、全篇悉く最新のスキー術で而も實用的な日本化を主とし、初心者開始準備から基本動作の解説の堂に入つた點、最後の軍隊スキー術等他書にない好著である。

丘陵スキー術

四版
入函判四
錢十七圓一料
錢二十

全日本スキー聯盟會長 稲田男爵序文・全日本學生ス醫學博士 河本禎助先生序
竹節選手はイタリーの國際スキー大會に日本で最初に入賞した外幾多の好記録を持
つ現日本の誇る第一人者である。各種フオームの研究は勿論、雪・トラックス、競技の
理論と實地研究、それに競技の解説に至つては他書の未だ及ばざる獨壇場である。
初心者にも、新しきスキー術の開拓者も見逃せぬ新刊書である。

新しいスキー術競雪ウツタス技

五版
入函洋判菊
錢十七圓二料
錢二十送

△ウキンタースポーツと其の參考書！

美津濃のスキー スケート用品



断然 優秀を誇る純國産品 美津濃製を始め新しい外國品等 冬の用品總てが揃ひました。特に新製ヒツコリースキーは値段に品質に絶對他の追従を許さぬ逸品です。是非御來店を!!

一揃 (スキー・絨具・杖) 帽子・手袋 ¥ 10.00 スキー賣出

大阪 淀屋橋
東京 小川町
神戸 元町通

美津濃

名古屋 大須門前
京都 四條通
大阪南 日本橋

冬山の用具

スイスビッケル 各種

シュタイグアイゼン 各種

其 他

ザイル・コッヘル・ワックス・杖
帽子・靴下・絨具・等

アザラシ

廉價にして非常に品質の良いスキー用アザラシの皮を豊富に取揃へました是非御用命の程御待ち申して居ります。

神田區今川小路二ノ四(九段下電車通)

片桐テント登山具店

スキー靴と登山靴



實地研究調製

日大山岳部御用
早大山岳部御用

イケダ靴店

東京市外戸塚町下戸塚450

早大グラウンド坂上

カタログ進呈